

# ～あしかわ和美活動報告～



任期満了まで笑顔いっぱい！  
まだまだ、しっかり働きます！



全国市議会議長会より議員在職10年表彰を受けました。  
今まで支えてくれた家族、友人、諸先輩方、市民の皆さま・・・心から感謝の気持ちでいっぱいです。  
振り返ってみると、まさに猪突猛進！という感じの10年でした。  
色々なことがあったなあーって、あらためて思います。  
そしてたくさんの方に出逢い、たくさん笑顔に出逢い、本当に幸せな10年でした。ありがとうございます！

## ★磐田メイツ睡眠クリニック勉強会へ参加してきました

テーマ『小児無呼吸』

子どもにとって必要な睡眠時間は、大人と大きく異なります。

目安として、1-2歳で11-14時間、3-5歳で10-13時間、6-13歳で

9-11時間、14歳-17歳で8-10時間の睡眠時間を必要とします。一日の

半分近くが睡眠時間となるのです。今、日本の子どもたちの睡眠は危機に

晒されています。小児無呼吸を疑うポイントは、「いびき」、「寝ている姿」、

「寝相が悪い」など…。成長期6歳未満に扁桃肥大やアデノイドの増殖が起こり、気道が狭くなることにより無呼吸の原因

になり、子どもの成長にも大きな影響があります。まずは早期発見、早期治療が大事！



## ★寺谷用水視察

寺谷用水の歴史は約400年前、徳川家康の家臣平野重定公が

「農民福利の基盤は水利の安定にあり」

として現在の磐田市寺谷地先に水源を求め、

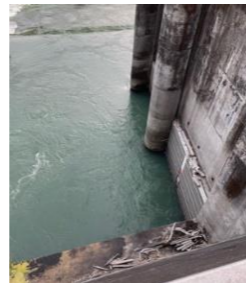
約12kmの水路を開さしたのが起源です。

施設の歴史や運営、管理の状況を丁寧に説明

して頂きました。水がすべての村に公平に流れる

よう「井組」の組織を作り管理した発想はすごい！

大切にしていきます。



## ★磐田市議会議員研修

テーマ『磐田市は戦後平和の発祥』 副題…歴史を誇りに感じてこそ実用に活かされる

緑十字機不時着を語り継ぐ会（緑語会）三浦様よりお話しいただきました。

1945年8月20日深夜、終戦に向け指令を受けた軍使たちが搭乗した緑十字機は燃料切れ

となり、鮫島海岸に不時着します。

その時鮫島海岸では日干し中のイワシ盗難防止のため住民が見張りをしており、鮫島住民、

袖浦郵便局、袖浦飛行場の人たちの甚大なる救援活動が行われ、無事に軍使たちは使命を

果たすことができました。

もしも住民の救援が無かったら、太平洋戦争は終戦を迎えていなかったかもしれない。

鮫島住民の救援活動に対し、軍使たちは感謝の敬礼をしたといいます。

人として「誇り」を持って生きていく。「誇り」は生きる自信と力になるということ。

私たちがこの歴史を伝承することにより、磐田の若者たちに「誇り」を持ってもらい、

これからの人生に活かして欲しいと思いました。大変勉強になりました。



YouTube  
『“太平洋戦争ラストミッション”  
戦後日本の命運を分けた緑十字機』  
お時間があるときに  
是非視聴してみてください！

# 令和5年6月・9月 磐田市議会定例会 一般質問

※ 抜粋してお知らせします

令和5年6月・9月 磐田市議会定例会で一般質問しました。

『子育て力』『地域力』『環境力』…大好きな磐田市の輝かしい未来に向け、本年もこの3つの柱を念頭に、今後も皆さまの信頼に応えるべく、決意を新たに精一杯活動してまいります。



## ◎ 本市の人口維持・増加について

問：移住・定住施策と様々なデータの活用と開示の考えは。

答：主なターゲットを「若者・子育て世帯」と「本市出身で大都市圏に住んでいる人」として進めている。「人が集まるまちプロジェクト」を立ち上げ議論を進めている。データ活用等は、住民データを一元化して分析できるツールを導入し、効果検証を図り、政策立案につなげるEBPM(※1)を推進していく。有用なデータは、民間への積極的な開示を検討していく。

※1 EBPM…証拠に基づく政策立案と訳され、政策の企画をその場限りの話題に頼るのではなく政策目的を明確化したうえで合理的根拠に基づくものとする。

問：若者定着の考えは。

答：市民と行政でつくる地域情報サイト「いーわいわた」を通じて、人と人がつながる機会を増やし、一人でも多くの若者に選んでいただけるまちづくりを目指す。

問：新たな企業誘致の考えは。

答：食やエネルギー、スポーツ関連などの次世代産業やスタートアップ企業など多様な業種の誘致に積極的に取り組んでいく。

問：アントレプレナーシップ教育(※2)について調査・研究していく考えは。

答：「探究的な学び研究会」を新たに立ち上げ、探究的な学びに力を入れて、学校教育を進めていく。

※2 アントレプレナーシップ教育…起業家精神と起業家的資質・能力を有する人材を育成する教育のこと。

## ◎ 住むだけで健康になるまちを目指して

問：動き盛り世代の健康づくりの取組は。

答：アプリやポイント活用の仕組みづくりに向けた実証実験を進めていくよう検討している。

## ◎ 市長公約

問：未達成事項に対する今後の対応は。

答：未達成の課題は、環境の変化や状況を見ながら、引き続き調査・協議を進めていく。

## ◎ 安心して子育てできる磐田市へ

問：子育て支援センター設置の検討と進捗状況は。

答：空白地である見付地区の磐田北幼稚園内に6年4月を目標に新たに子育て支援センターを設置していく。

問：土曜保育の申請方法と預かり保育の時間延長の課題は。

答：今後、申請の電子化を検討していく。また、将来的には幼稚園を全園認定こども園化し、保育園枠を設けて預かり時間を拡大していく。

## ◎ こどもの権利が守られるやさしいまち磐田市へ

問：こどもの権利条例制定の市長の考えは。

答：国の定めるこども大綱を踏まえ策定する市こども計画とあわせ6年度の制定を目指す。現在、国の動向を注視するとともに他自治体条例の情報収集に努めている。

## ◎ 海と山と文化を活かしたまちづくり

問：沿岸地域活性化に向けた計画策定の考えは。

答：地域との連携、対話を大切にして、各種事業を進め、沿岸部の活性化ビジョンの策定も検討していく。

問：「かたりあ」一帯の文化ゾーンを文化力向上の拠点として発展させていく具体的な取組は。

答：市文化協会から要望のあったひと・ほんの庭にこつと2階展示室の整備を進めていきたい。

問：海・山・文化エリアが連携した未来につなげるまちづくりの考えは。

答：官民共創でのイベント実施や情報発信を推進することで市民の交流が図られ、関係人口や交流人口の増加、若者の移住定住につながり、未来につなげるまちづくりになると考えている。